

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
公衆衛生看護学方法論Ⅷ （家庭訪問演習）	4年次 前期	必修	演習	1単位 （30時間）	駒形恵理子 ※
授 業 概 要					
人々が自らの健康や QOL 向上を維持・改善するため、個人や家族の健康課題とコミュニティの健康課題を連動させながら、対象が暮らす生活の場に向いて保健指導を行う「家庭訪問」の技術と展開方法について、実際の訪問場面を想定した演習を通して学ぶ。					
到 達 目 標					
1. 家庭訪問時のマナーと、援助者としての基本的態度を実践する。 2. 家庭訪問のプロセスのうち、情報収集から計画立案まで、事例の状況に合わせて適切に実施する。 3. 家庭訪問の実施の場面を通して、家庭訪問に必要な技術と対象に応じた支援の展開方法について述べる。 4. 家庭訪問終了後の支援について具体的に考察する。 5. アウトリーチの考え方を活用した家庭訪問のポイントを考察する。 6. 個別支援から集団・コミュニティへの活動の反映について考察する。 7. 公衆衛生看護学臨地実習Ⅱに向けて、自己の課題を見出し、解決策について述べる。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	1. 個別支援の展開過程の復習				駒形恵理子 ※
2-10	2. 紙上事例を用いた家庭訪問演習 1) 情報収集 2) アセスメント 3) 健康課題の抽出 4) 計画立案 5) 訪問実施				駒形恵理子 ※ 佐藤美恵子 ※ 原澤由美子 ※ 篠田 浩子 ※ 池田 由貴 ※
11-15	3. 実施例の見学を通して、個別支援について考察 1) 家庭訪問に必要な技術と対象に応じた支援の展開方法 2) 実施例の今後考えられる支援 3) アウトリーチの実践について 4) 個別支援から集団・コミュニティへの活動の反映 5) 実施上の課題や自己の学習課題の解決策について				
学 習 方 法					
演習、グループワーク、講義					
評 価 方 法					
演習評価表による評価を行う。 ・評価の詳細については、初回講義時提示する。					
先 修 科 目					
なし					
教 科 書、参 考 書					
〔教科書〕 公衆衛生看護学.jp 荒賀直子 インターメディカル					